

第1回奈良県立病院地方独立行政法人評価委員会 概要

1 日 時 平成30年8月3日（金） 10:00～11:50

2 場 所 やまと会議室 3階大会議室

3 出席者【委 員】新川委員長、上野委員、浮舟委員、平井委員

【病院機構】上田理事長、菊池理事、横山理事、上山理事、村田理事、
中村総合リハビリテーションセンター院長補佐、大峯総合医療センター事務部長、畑井西和医療センター事務部長、中野法人本部事務局長 他

【奈良県】林部長、岡野次長、中井次長、西野課長、岡本参事 他

4 会議要旨

<議 事>

◇平成29年度の業務実績及び第1期中期目標期間終了時に見込まれる中期目標期間の業務実績に関する評価結果(案)について

①「平成29年度の業務実績」に関する評価結果(案)についての意見

・県の評価結果(案)は、妥当である。

②「第1期中期目標期間終了時に見込まれる中期目標期間の業務実績」に関する評価結果(案)についての意見

・大項目「I 患者にとって最適な医療の提供」の中項目「断らない救急の実現」については、「S（中期計画を上回って実施している）」と評価するのが妥当である。

【理由】救急搬送受入率について、総合・西和ともにH26年度に比べ上昇。また、本中期目標期間中に「断らない救急」のための体制整備と意識向上が図られたことは優れた成果であり、「S」と評価するに値する。

・その他の県の評価結果（案）については妥当である。

【その他、主な意見】

・経営改善に向けて、繰越欠損金の取扱を含めて中長期の収支見通しを立てることが重要。

・機構の経営改善という一方で、県全体の医療費適正化の視点に立って県と機構がどのように連携していくのか、次期目標に盛り込むべき。

・西和医療センターの今後のあり方は、経営改善と切り離して考えるのか、解消しながら整備に着手するのか課題。



- ・総合医療センターと西和医療センターは役割分担していくべき。併せて、地域医療構想推進の中で他の医療機関との連携を図っていくことが重要。
- ・職員のやる気・モチベーションを高め、働きがいのある、ワークライフバランスの取れた職場づくりを行うことが必要。
- ・産休や育休を取得し易くすることが、看護師の離職率低下や看護の質の向上にもつながる。
- ・新総合医療センターの移転開院について、まだ県民に十分知られていない。移転開院や病院の充実面などの広報とともに、県民の健康保持や病院への受診のしかたなどについて、県民への啓発を行っていくべき。
- ・国際化の中で奈良の観光を支える意味でも、県の基幹病院として外国人患者への丁寧なフォローも望まれる。
- ・インシデント・アクシデントをなくしていくため、そのデータ分析をどのように行っていくか、次期目標に盛り込むべき。
- ・当該分野では医師や看護師の指標が主だが、医療費抑制や健康増進には薬剤師やコメディカルの役割が大きい。また、診療報酬を適正に計算・請求するなど医療事務体制の強化も重要。これらについても、次期目標に盛り込むべき。